



## 本大会 | 3日目

「人々が諦めずに、苦しんでいる人々に謝罪の気持ちを伝える人がどんどん出てきているのは、驚くべき現象です。」

杉野恭一師、RfP国際委員会副事務総長

## 分科会：共通の行動目標

第9回ACRP東京大会3日目は、分科会とビジネス会議が行われた。『行動するアジアの宗教コミュニティ：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして』のテーマに基づき、第9回東京大会はアジア全域の多様で異なる宗教コミュニティが集い、アジアをより平和に、より包括的に、そして身体的・精神的に健康にするためにさらなる行動に向かうことが目的である。

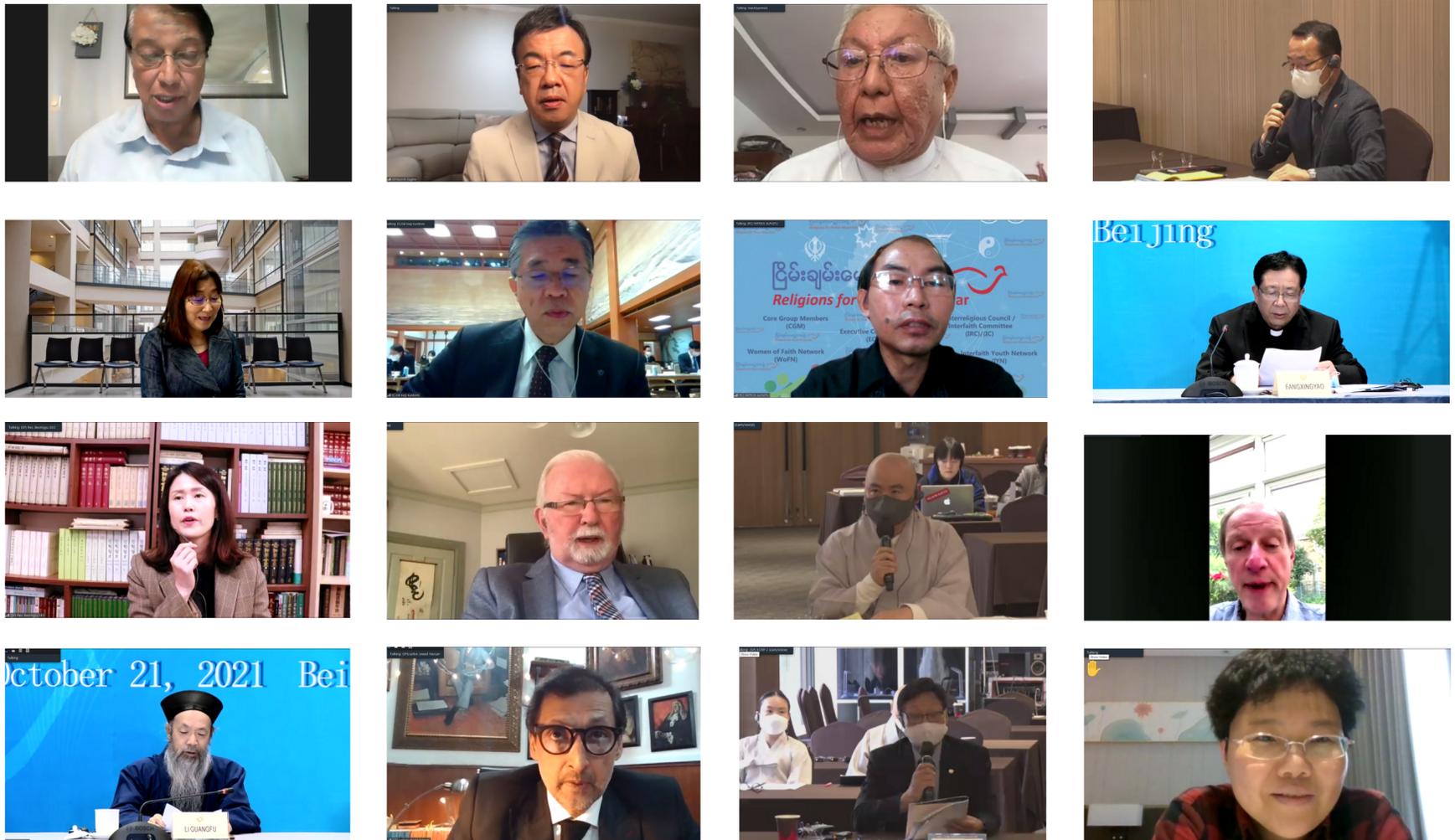
4つの分科会では「平和と人間の尊厳の教育」、「弱い立場の人々の人権と幸福」、「社会の共存と調和のための和解」、「多様化する社会における開発と環境」という大会のサブテーマに応じ、議論がなされた。

分科会1は「平和と人間の尊厳の教育」をテーマに、韓国宗教人平和会議（KCRP）のサン・ウォン・ファン師が議長を、ラマクリシュナミッション・ヴィヴェークナンダ大学副学長であるスワミ・アトマプリアナンダ師がメインスピーカーを務めた。リソースパーソンは、WCRP/RfPオーストラリアの書記であるスーザン・アニス博士とフィリピンのミリアム大学平和教育センター所長であるロレタ・カストロ博士が務めた。

セッションの参加者は、アジアで起きている多くの紛争により平和が遠ざかっている事実を嘆き、また、平和教育や資源へのアクセスの欠如、女性や青年の平和構築者としての参加の不足、ソーシャルメディアの無秩序な使用などが指摘された。崩壊しつつある家族という社会構造や、政府による武器・核兵器への支出は、平和教育の重要な課題とされた。このような見解に基づき、本分科会がACRPに提言した内容は、家庭、学校、政府における平和教育の推進、平和促進のためのソーシャルメディアの規制、平和構築者の能力向上を目的とした平和関連資料の作成、女性や青年の平和構築への関与の拡大であった。



分科会2では、ACRP事務総長の**根本信博**博士が司会を務め、フィリピンのカガヤン・デ・オロ大司教区名誉大司教の**アントニオ・レデスマ**大司教がメインスピーカー、WCRP/RfPインドネシアの**エルガ・サラブン**師と日本の専門家である**鬼丸昌也**氏（認定NPO法人テラ・ルネッサンス創設者）がリソースパーソンとして参加し、「弱い立場の人々の人権と幸福」について議論された。



分科会2の参加者は、そのコンセンサスに基づき、ACRPに対してすべての人が食糧、教育、平和な生活などの基本的権利にアクセスできるよう、あらゆる努力をすることを求めた。これは、ACRPがアジアにおける包括的な社会・経済開発モデルを推進していくことを意味している。さらに、ACRPは人身取引、児童労働、子ども兵の撲滅に向けた取り組みを継続するよう、求められた。

分科会3は「社会の共存と調和のための和解」をテーマに2つの会議が行われた。一つ目のセッションでは、議長にACRP実務議長の**ディン・シャムスディーン**博士、メインスピーカーにWCRP/RfPミャンマーの**アル・ハッジ・ウ・エ・ルウィン**師、WCRP/RfP国際副事務総長の**杉野恭一**師と東京外国語大学の**土佐桂子**教授をリソースパーソンとして、ミャンマーのラカイン州の問題を扱った。

セッションでは、ミャンマーの政治的・社会的危機と、パンデミックによりさらに複雑化しているラカイン州の状況悪化について議論した。この迫りくる問題に効果的に対処するため、国連など他の国際機関と協力しながら、WCRP/RfPミャンマー、ACRP、そしてWCRP/RfP国際の間でより強固な協力関係を築く必要性が強調された。そしてACRPに対し、ミャンマー宗教界の叡智に全幅の信頼を寄せた宗教間対話、そしてACRPのフラッグシップ・プロジェクトをはじめとする外部からの人道支援の努力を継続することを求めた。

分科会3の二つ目のセッションは「朝鮮半島の平和と和解」をテーマに、KCRPのソン・ジン師が議長を務め、民族和解委員会事務局長のピーター・ジュソク・カン師をメインスピーカー、WCRP/RfP日本の松井ケティ博士、KCRPのソ・ボムギョ師、オ・ビヨンド師、ユン・スングル師をリソースパーソンに行われた。

この分科会の最大の関心事は、いかにして朝鮮半島に平和をもたらすか、そして平和教育の重要性についてである。韓国でしっかりとした構造の平和教育を促進していく必要性が、議論のハイライトとなった。また、次の3つの共通アクション—1)宗教者として平和をもたらすために何を行ってきたかについての振り返り、2)相手（この場合は北朝鮮＝朝鮮民主主義人民共和国）を悪者にするのではなく、対話をする事、3)若い世代への平和教育の実施—を提言した。



分科会4は「多様化する社会における開発と環境」をテーマに、中国宗教者和平委員会（CCRP）執行副会長のデン・ゾンリャン師が議長を、WCRP/RfP国際事務総長のアッザ・カラム博士が開会挨拶を、ユー・ハイ博士がメインスピーカーを、そしてパキスタン高等裁判所ジャワード・ハッサン判事、南オーストラリア諸宗教連盟会長フィリッパ・ローランド師、CCRPメンバーで中国仏教協会副会長のパンチェン・ラマ・エルデニ・チョースキー・ギャルポ師がリソースパーソンを務めた。

参加者は、気候変動の議論を中心に、環境の状態がすでに憂慮すべき緊急事態に陥っているという認識を共にしている。だからこそ、宗教指導者は環境保護のために影響力の高いプログラムを追求する上で、より積極的な役割を求められているのである。ACRPファミリーの中で環境保護のためにリーダーシップを発揮しているCCRPに対し、評価と称賛が示された。CCRPは環境の持続可能な発展に向けたプログラムにおいて、ACRPをリードしていく決意を新たに示した。





Asian Conference of Religions for Peace  
9th General Assembly Tokyo

# 全体会議 II スピーカー

## フラッグシッププロジェクト



人身取引防止

リリアン・シソン博士  
APWoFN 委員長



青年リーダー育成

レンツ・アルガオ博士  
APIYN 委員長



平和構築と和解

アル・ハッジ・ウ・エ・ルウィン  
RfP ミャンマー



いのちの尊厳教育

NHMアブ・バッカー教授  
RfP バングラデシュ



キム・テソン師  
KCRP



環境問題

スー・シャオホン  
CCRP



Asian Conference of Religions for Peace  
Religions for Peace 



Asian Conference of Religions for Peace  
9th General Assembly Tokyo

## 全体会議 III スピーカー

新型コロナウイルス感染症とアジアの宗教コミュニティ：学びと復興



APIYNの声  
Mr. Shameer Rishad  
APIYN



武見敬三氏  
参議院議員、WHOユニバーサルヘルスカバレッジ担当親善大使



APWofNの声  
ハイディ・フローレス・ファハルド氏  
APWofN



カルロス・レイス神父  
フィリピン



イマーム・ヤン・ファミン  
CCRP



西原廉太博士  
RfP 日本委員会、立教大学総長



アフマド・スアディ博士  
インドネシア



Asian Conference of Religions for Peace  
Religions for Peace 



Asian Conference of Religions for Peace  
9th General Assembly Tokyo

# アフガニスタンセッション

## サルビラ・メミアウル氏

ユア・ボイス・オーガニゼーション・プロジェクトリーダー、アフガニスタンNGO

## ムハマド・ハニフ・カーン氏

RfP パキスタン、ACRP執行委員、ピー・サイド・ラクテ・ハサナイン、ムスリムハンド創設者兼理事長

## ハミドゥラ・ハミッド氏

JENアフガニスタン事務所所長

## 山本英里

シャンティ国際ボランティア会事務局  
局長兼アフガニスタン事務所所長

## 松浦晃子氏

JENアフガニスタン・トルコプロジェクト・プログラムオフィサー

## 小野山亮氏

平和村ユナイテッド代表



Asian Conference of Religions for Peace  
**Religions for Peace** 